

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成19年7月19日(2007.7.19)

【公開番号】特開2006-1965(P2006-1965A)

【公開日】平成18年1月5日(2006.1.5)

【年通号数】公開・登録公報2006-001

【出願番号】特願2004-176650(P2004-176650)

【国際特許分類】

C 08 J 5/00 (2006.01)

C 08 K 7/06 (2006.01)

C 08 L 77/10 (2006.01)

【F I】

C 08 J 5/00 C E R

C 08 J 5/00 C E Z

C 08 K 7/06

C 08 L 77/10

【手続補正書】

【提出日】平成19年6月4日(2007.6.4)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

芳香族ポリアミド及び単纖維の表面に長手方向に延びる皺が実質的に無い炭素纖維を含有する熱可塑性樹脂組成物からなる、曲げ弾性率が35000MPa以上、比重が1.4以下である熱可塑性樹脂成形品。

【請求項2】

比弾性率が25000MPa以上である請求項1記載の熱可塑性樹脂成形品。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

本発明は芳香族ポリアミド及び単纖維の表面に単纖維の長手方向に延びる皺が実質的に無い炭素纖維を含有する熱可塑性樹脂組成物からなる、曲げ弾性率が35000MPa以上、比重が1.4以下である熱可塑性樹脂成形品に関する。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

このような物性を有する熱可塑性樹脂成形品は、芳香族ポリアミドを含有する熱可塑性樹脂(A)と単纖維の表面に単纖維の長手方向に延びる皺が実質的に無い炭素纖維(B)を含有する熱可塑性樹脂組成物を成形することによって製造することができる。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0022

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0022】

炭素纖維（B）は、単纖維の表面に単纖維の長手方向に延びる皺が実質的に無いことが必要であり、さらに単纖維の纖維断面の長径と短径との比（長径／短径）が1.00～1.02、ストランド弾性率が230～500GPaであることが好ましい。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0023

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0023】

ここで、単纖維表面の皺は、電子顕微鏡で単纖維表面を観察し、纖維方向に溝があるかないかを判定したものであり、単纖維の纖維断面の長径と短径との比は、電子顕微鏡度で単纖維の断面を観察して評価したものである。